

【参考様式－5】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川（道路）名	造成事業	施設の場所	集落コード
広瀬川橋	1978年	館山市	山名川	県営ほ場整備事業 安房中央東部地区	千葉県館山市広瀬1618-1	

道路橋示方書	昭和47年	橋の等級（設計荷量）	二等橋（TL-14）	特記事項	
--------	-------	------------	------------	------	--

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	25.0m(24.4m)		幅員(車道幅員)	6.0m(5.0m)		
	施設の構造	上部工型式	単純合成桁橋					
			銅製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
			SM50YA SS41	不明	線支承	無		
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	PC杭φ400		
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	2.0KM以上			
計画策定目的	今後計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁寿命を100年間とする目標とし、修繕及び架替え要するライフサイクルコストを縮減するため、シナリオを設定し個別の施設計画を策定し今後の維持管理の基データとすることを目的とする。							
調査結果概要	現地調査	本橋は、1978年に架設された単純合成桁橋である。架設後 約43年経過しており、部材の健全度Ⅱに該当する損傷が見られた。 【C1判定】:主桁、支承本体、アンカーボルト、排水管の腐食 【B判定】:主桁、横桁、支承本体、アンカーボルトの腐食、床版、橋台のひびわれ、豆板、うき、欠損 【M判定】:支承、防護柵、伸縮装置、舗装、排水ます ただし、F11Tの高力ボルトを使用しているため遅れ破壊が懸念されるところから、早期に措置を行う必要があると判断し、橋梁全体の健全度はⅢとする。						
	劣化原因(推定)	主桁、支承部の腐食:伸縮装置からの漏水によると推定される。(対策区分C1)					判定区分	Ⅲ
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】1種ケレン&塗装(主桁、横桁)、断面修復(橋台)、取替(伸縮装置、支承、防護柵)、打換(舗装)、床版防水工、ひび割れ注入(床版) 【耐震化対策】 —						
	対策時期(案)	【老朽化対策】予防保全型にて算定した値(詳細は事業計画策定結果による) 2025年:主部材塗装、ボルト取換、親柱修復、2029年:床版防水、橋台断面修復、定期点検、2032年:防護柵取替、2034年:定期点検 【耐震化対策】 —						
	対策費用(参考)	【老朽化対策】(詳細は事業計画策定結果による今後100年後試算) 予防保全型:320,941千円 対症療法型:431,378千円 【耐震化対策】 —						
管理方法	管理方法	・長寿命化計画は、5年毎の点検結果を踏まえ策定計画を見直しを行なう必要がある。 ・対象橋梁の全体的な検討が必要である。 ・対象橋梁の補修・修繕計画の優先順位等を踏まえた管理が必要である。						

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年
対策費用（長寿命化）（百万円）	12.7				24.7			9.4		2.1				
対策費用（更新）（百万円）														
対策の内容・時期	主部材塗装、ボルト取換、親柱補修				定期点検、床版防水工、橋台断面修復			高欄取替		定期点検				

長寿命化計画による効果

- 今後100年間の事業費を比較すると、予防保全型の方が対症療法型より約1億のコスト縮減効果がある。
- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保、事業コストの平準化ができる。
- 適切な維持管理を行うことで、部材毎の補修・修繕箇所の優先順位を明確にすることが可能である。